

第4回スポーツファシリティーズ大賞（スポーツ庁長官賞）
受賞名：釜石鵜住居復興スタジアム 受賞者：株式会社梓設計

【受賞理由】

建築・まちづくりの観点から持続可能性（サステナビリティ）に優れているものであり、以下の点が評価された。

- 岩手県釜石市において東日本大震災からの復興のシンボルとして、震災で被害を受けた旧鵜住居小学校、釜石東中学校の跡地に建設。鵜住居地区は、震災で多くの方が犠牲になった一方、子どもたちが手を取り合って迅速に避難して難を逃れた場所であり、「震災の記憶と防災の知恵」を次世代に伝える役割を持つ。
- ラグビーワールドカップ 2019 の開催会場として計画された施設であるが、スポーツ健康施設としての日常利用や防災教育拠点としての活用など、大会後のレガシーとしての利用を考慮して設計。サイドスタンドは全て仮設で計画し、大会時は 16,000 席だが、大会後は地域の経済規模を考慮して 6,000 席とし開放的で日常利用可能な公園となっている。
- なるべくシンプルで汎用性の高いスタジアムとし、南側の山林、北側の川に挟まれた敷地特性を生かして、釜石の自然と調和した配置計画になっている。



サイドスタンドの仮設席がない状態のスタジアム（上空南側から）

<概要>

施設用途：スタジアム、観覧場、管理棟、集会場

敷地面積：89,141.53 m² 延床面積：661.68 m² 竣工年月日：2018年7月

評価実績等：イギリスの専門誌「ラグビーペーパー」で「世界最高のスタジアム TOP20」の1つに選定